

平成25年度 第1回CCC社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成25年12月9日（月）16：00～18：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：土屋委員 犬塚委員 竹田委員
（事務局）井端事務局長 森下 松本

IV. 資料

資料① 平成25年度CCC社会学グループ運営委員会の活動計画

資料②-1 社会学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容

資料②-2 社会学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査（平成25年8月中央教育審議会資料）

参考2 これからの大学教育等の在り方について（平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料）

参考3 教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定資料）

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）

参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）

参考6 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）

参考7 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について
（平成25年10月教育再生実行会議第四次提言資料）

参考8 教授会の権限、4項目に（新聞情報）

参考9 授業に「タブレット革命」（新聞情報）

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度のCCC社会学グループ運営委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び表現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた22件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

（1）社会学教育における学士力の考察の到達目標、到達度
概ね妥当であるとの意見が多かった。

主な意見と検討内容（意見は①～⑥、検討内容は*で示す）

① カリキュラムポリシーやディプロマポリシーとの整合性について示した方がいのではないかと。

* 統制モデルではないので、各大学でレベルに応じてカリキュラムに入れ込んでいただきたい。

② 調査倫理の涵養を加えてはどうか。

* 到達目標4の到達度③に「社会調査の調査倫理を身につけ」と提案しているが、強調するために到達目標4の解説で「調査倫理に基づいた」を追記することにした。

③ ミクロの視点で社会問題を取り扱うべきではないかと。

* 教授法のレベルなので、各先生方でミクロの視点を取り入れていただきたい。

④ コア・カリキュラムのイメージに社会思想を入れるべきではないかと。

* 到達目標1のコア・カリキュラムのイメージの「社会学言論」と「社会学史」の間に「社会思

想」を追記することにした。

- ⑤ 到達目標1の解説で「従来社会学が対象にしてきた問題」の例示範囲を広く示した方がよいのではないか。
- * 「環境」について、5年後は環境制約において社会が大きく変わることははっきりしているの
で、到達目標2のコア・カリキュラムのイメージの「差別・逸脱の社会」の後に「環境制約下の
社会学」を追記することにした。
- ⑥ 評価方法にプロセス評価の視点を入れ込むべきではないか。
- * 「【3】教育力を高めるためのFD活動と大学としての課題(2) 大学としての課題②に「ポートフォリオを通じて学生の到達度を申告させ～仕組みが必要となる。」と提案している。5年先の提言なので、ポートフォリオはどの大学でも用いているのではないか。

(2) 教育改善モデル

賛同する意見がほとんどであった。

(3) 専門性、教育力、FD活動と大学としての課題

肯定的なご意見が多かった。

主な意見と検討内容(意見は①、検討内容は*で示す)

- ① 社会学としては、教員間の連携だけでなく、地域自治体、NPOや企業などとの連携が必要ではないか。
- * 大学としての課題③に「関連分野の教員や社会の専門家など」と社会の専門家に含めて提案しているが、強調するために「関連分野の教員や社会の専門家」の後に「(地域自治体、NPOや企業)」を追記することにした。

5. 次回の委員会

日時：平成26年2月10日(月) 14:00~16:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

再度アンケート結果を見直し、来年度の研究の進め方について検討する。